



2023年3月期 経営方針

免責事項

- 本資料のうち、業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料内に、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

01

これまでの振り返り

「真のグローバル企業」になるための企業変革 “Transform Olympus”

「真のグローバル企業」に向けての課題

- 経営意思決定の迅速化、効率化
- リスクマネジメントの一元化
- 人材と機能のグローバル最適配置
- グローバル医療機器企業に伍する事業運営スピードと効率の向上
- 治療デバイス分野の持続的成長
- 営業利益率と資本効率の改善
- グローバル展開に即したガバナンス体制
- 取締役会のダイバーシティ

“Transform Olympus”

グローバル・グループ
一体経営体制へ転換

グローバル人事制度への転換

“Transform Medical”
医療事業の再編成

コスト削減及び資本効率改善への
取り組み

取締役会のダイバーシティ化を伴う
指名委員会等設置会社への移行

期待する成果

- 新たな執行体制
- 責任の明確化
- 迅速な実行
- 成果を重視する体質
- 高生産性チーム
- 事業特性に即した事業運営体制
- タイムリーな新製品導入
- 患者様への高い医療効果
- 継続的な収益成長
- 更なる投資余力の向上
- 株主還元の向上
- 経営スピードの向上
- 戦略目的に即した取締役会構成
- 取締役会の戦略と長期的責任へのフォーカス

戦略目標と業績指標



世界をリードするメドテックカンパニーへと成長し、革新的な価値によって患者様、医療従事者、医療機関、医療経済にベネフィットをもたらし、世界の人々の健康に貢献する



年率 **5-6%**の売上高成長率を持続



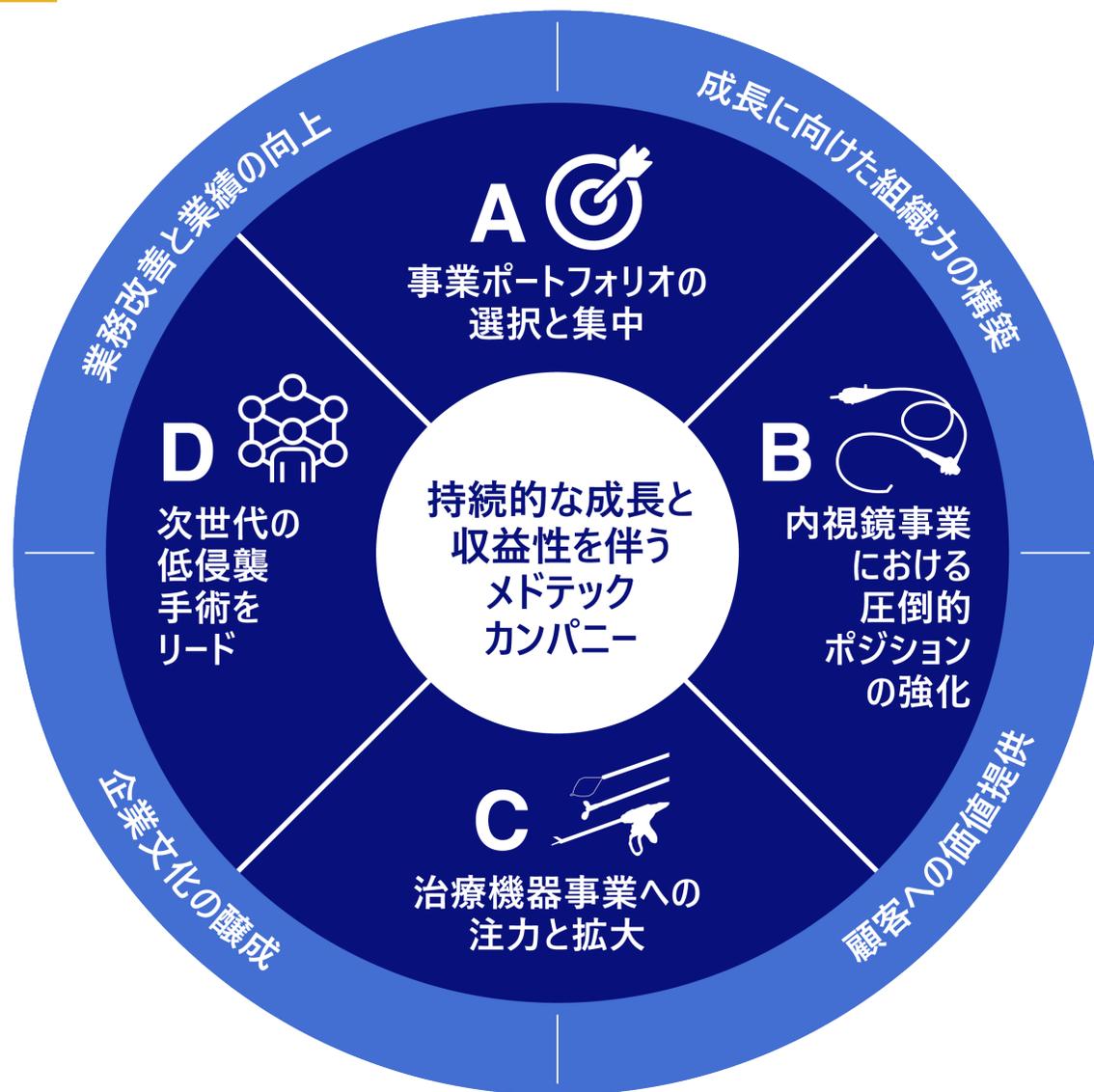
>20%の営業利益率*を目指す



当社が注力する治療領域において
リーディングポジションを獲得
(消化器科、泌尿器科、呼吸器科)

*その他の収益およびその他の費用を除外

経営戦略



A

医療分野を軸にした事業ポートフォリオ

B

リユース内視鏡の競争力堅持

シングルユース内視鏡によるポートフォリオ拡充

内視鏡の販売・サービスモデルの強化

保守サービス、症例ベースのビジネスモデルにシフト

C

市場セグメンテーションによる治療機器事業の成長加速
(消化器科、泌尿器科、呼吸器科)

D

医学的有用性、経済性の向上に寄与する統合技術を導入し次世代の低侵襲手術における競争優位性確立

グローバル・メドテックカンパニーへの 転換を加速させた2年間

FY2021

持続的な成長に向けて、真のグローバル・メドテックカンパニーへの転換を加速させる好機

長期的な成長を優先し、
Transform Olympusの実行を加速



事業ポートフォリオの
選択と集中



固定費の
構造改革



次世代消化器
内視鏡 EVIS X1の
確実な市場導入



今後の成長を
牽引する製品
開発への着実な
投資継続



効率的な
研究開発

FY2022

グローバル・メドテックカンパニーとしての
深化への転換を加速させる好機

FY2021に実行した
企業変革の継続と定着



医療ビジネスに
おける収益性の
高い成長戦略の
深化



Transform Olympus
による企業体質の
更なる改善
および基盤強化



今後の成長を
牽引する製品
開発への着実な
投資継続

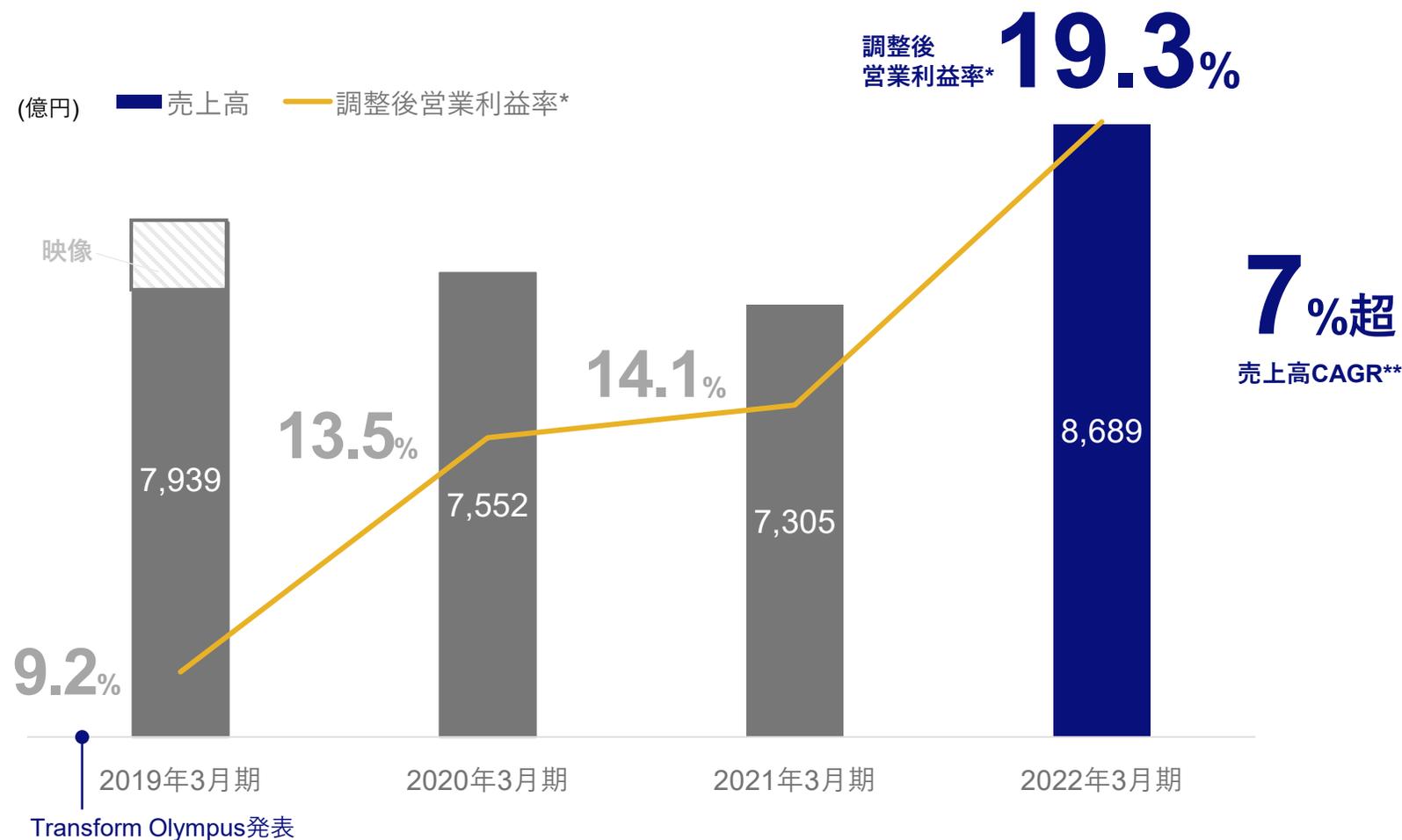


サステナブルな
社会に資する
ESGへの取り組み

Transform Olympus開始以降、コロナ禍を経て業績は大きく成長



売上高：2022年3月期はパンデミック前を超える成長
この2年間のCAGR**は7%以上を達成
調整後営業利益率*：大幅に改善し、20%超達成に向けて順調な進捗



注：2020年3月期以降は継続事業の数値を表示 *その他の収益およびその他の費用を除外 **FY2020を起点に、FY2021からFY2022までのCAGR

グローバル・メドテックカンパニーへの道のり

2020年3月期からさまざまな施策を実行し、従業員の意識や企業文化は大きく変化

FY2020

ガバナンス

- 指名委員会等設置会社に移行
- 治療機器事業のグローバル統括拠点を米国に配置

FY2021

事業ポートフォリオ

- 映像事業の譲渡を完了
- 医療分野の成長に向けて複数のM&Aを実施

構造改革

- 「社外転進支援制度」を日本で実施

製品の市場導入

- 消化器内視鏡「EVIS X1」を欧州・アジア一部地域、日本で発売

FY2022

ESG

- 「Dow Jones Sustainability World Index (DJSI World)」に選定

戦略

- 医療分野における戦略的な方針を策定

事業ポートフォリオ

- コーポレート・ベンチャー・キャピタル「Olympus Innovation Ventures」の設立

FY2023

事業ポートフォリオ

- 科学事業の分社化を完了し、新会社の全株式を第三者に譲渡することを念頭に引き続き検討

**Our journey
continues...**

02

2023年3月期 経営方針

FY2023 重点施策

事業成長と効率性の向上により財務目標を達成するとともに、
対象疾患における診療水準の向上に貢献し、患者さんのアウトカムを向上する



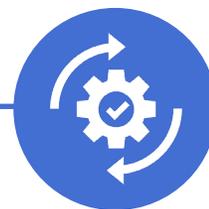
Focus

当社が最大限の力を
発揮できる疾患に
重点的に取り組む



Shape

診療水準を向上させる
新たな投資によって、医療
の未来を形成する



Enable

組織のグローバルかつ
スピーディーな対応力を
向上させる

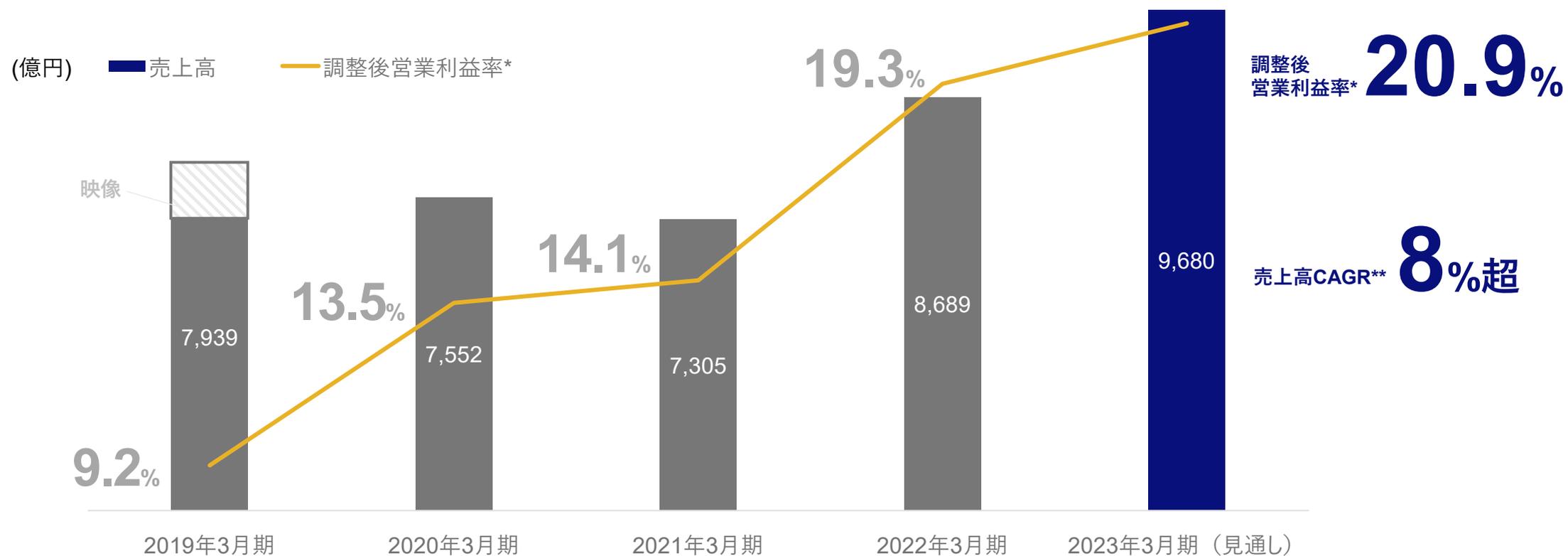


ESG

サステナブルな社会に
資するESGへの取り組み

経営戦略のマイルストーンに向けて

FY2021～FY2023までの売上高CAGR**は8%超に到達見込み
調整後営業利益率20%超の達成に向けて、全社一丸となって取り組む



注：2020年3月期以降は継続事業の数値を表示 *その他の収益およびその他の費用を除外 **FY2020を起点に、FY2021からFY2023までのCAGR

持続的成長に向けたシフト

企業変革の文化が根付いた今、十分な収益性を確保した上でさらなる成長基調にシフト

2023年3月期は最終的なゴールではなく、経営戦略における一つのマイルストーン





2022年3月期 連結決算概況 2023年3月期 通期業績見通し

ハイライト

2022年3月期 通期実績

- ✓ 売上高： 第4四半期で+10%、通期で+19%成長
医療分野・科学事業は過去最高の売上高を達成
- ✓ 営業利益： 第4四半期*・通期の営業利益は、額・率ともに過去最高
第4四半期で18.8%、通期で17.7%、通期の調整後営業利益率は19.3%
- ✓ 当期利益**： 過去最高の1,157億円、EPSも過去最高の90円***

2023年3月期 通期業績見通し

- ✓ 売上高： 医療分野・科学事業の事業成長により、+11%の9,680億円を見込む
- ✓ 営業利益： 経営戦略で掲げた調整後営業利益率20%超を見込む
- ✓ 当期利益**： 過去最高の1,540億円、EPSは+34%の121円となる見通し
- ✓ 株主還元： 年間配当は前期比2円増の16円を予定

*四半期報告書の開示を開始した2009年3月期から **親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS ***株式分割を考慮

01

**2022年3月期
連結業績および事業概況**

2022年3月期 通期実績 ①連結業績概況

- 1** 売上高： 4Qで+10%通期で+19%成長。医療分野・科学事業は過去最高の売上高を達成
- 2** 営業利益： 4Q*・通期の営業利益は、額・率ともに過去最高。4Qで18.8%、通期で17.7%、通期の調整後営業利益率は19.3%
- 3** 当期利益**： 過去最高の1,157億円、EPSも過去最高の90円***

通期実績（4-3月）

4Q実績（1-3月）

(単位：億円)	FY2020	FY2021	FY2022	FY2021比	為替除き FY2021比	FY2020比	為替除き FY2020比
売上高	7,552	7,305	1 8,689	+19%	+12%	+15%	+10%
売上総利益 (売上総利益率)	4,828 (63.9%)	4,595 (62.9%)	5,717 (65.8%)	+24%	+16%	+18%	+12%
販管費 (販管費率)	3,812 (50.5%)	3,570 (48.9%)	4,054 (46.7%)	+14%	+9%	+6%	+3%
その他の損益など	▲94	▲205	▲124	-	-	-	-
営業利益 (営業利益率)	922 (12.2%)	820 (11.2%)	2 1,539 (17.7%)	+88%	+60%	+67%	+50%
調整後営業利益 (調整後営業利益率)	1,021 (13.5%)	1,031 (14.1%)	1,678 (19.3%)	+63%			
税引前利益 (税引前利益率)	866 (11.5%)	768 (10.5%)	1,499 (17.3%)	+95%			
当期利益** (当期利益率)	517 (6.8%)	129 (1.8%)	3 1,157 (13.3%)	+796%			
EPS	39円	10円	90円				
円/USドル	109	106	112				
円/Euro	121	124	131				
円/CNY	16	16	18				

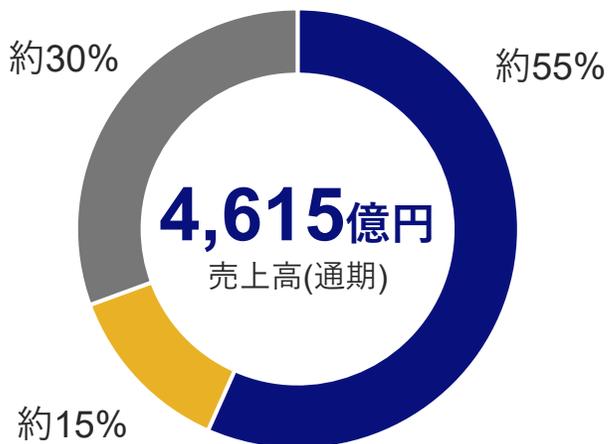
2022年3月期配当

年間配当14円

FY2020	FY2021	FY2022	FY2021比	為替除き FY2021比	FY2020比	為替除き FY2020比
1,939	2,170	1 2,391	+10%	+4%	+23%	+15%
1,152 (59.4%)	1,360 (62.7%)	1,599 (66.9%)	+18%	+3%	+39%	+23%
1,030 (53.1%)	1,069 (49.3%)	1,118 (46.8%)	+5%	1%	+9%	+3%
▲47	▲119	▲31	-	-	-	-
75 (3.9%)	173 (8.0%)	2 450 (18.8%)	+161%	+68%	+498%	+319%
124 (6.4%)	296 (13.6%)	490 (20.5%)	+66%			
61 (3.1%)	149 (6.9%)	462 (19.3%)	+210%			
▲75 (-)	113 (5.2%)	281 (11.7%)	+149%			
-	-	-				
109	106	116				
120	128	130				
16	16	18				

*四半期報告書の開示を開始した
2009年3月期から
**親会社の所有者に帰属する当期利
益。2016年3月期までは日本基準、
2017年3月期以降はIFRS
***株式分割を考慮

2022年3月期 通期実績 ②内視鏡事業



内視鏡事業全体

(単位: 億円)	FY2021					FY2022				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
売上高	743	970	1,054	1,170	3,937	1,000	1,206	1,131	1,278	4,615
営業利益	124	299	316	249	988	227	390	300	416	1,332
その他の損益*	▲4	▲2	▲8	▲46	▲59	▲22	▲10	▲9	11	▲29
営業利益率 (為替影響調整後)	16.7%	30.8%	30.0%	21.2%	25.1%	22.7% (23.7%)	32.3% (31.9%)	26.5% (27.0%)	32.5% (26.1%)	28.9% (27.3%)

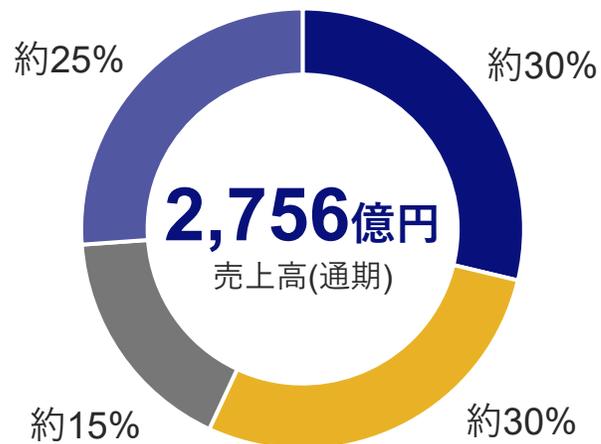
*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値/**FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡について、治療機器事業の呼吸器科に移管。FY2021の実績も同様に組替え済。

FY2022 vs FY2021 (4-3月) 売上高成長率

円ベース
為替影響調整後

事業区分	円ベース	為替影響調整後	説明
■ 消化器内視鏡	18%	11%	新型コロナウイルスの影響からの回復もあり、全ての地域でプラス成長。特に北米と欧州で好調に推移。「EVIS X1」シリーズの販売が堅調に推移していることに加え、前世代のスコープなども増収に寄与
■ 外科内視鏡	17%	11%	新型コロナウイルスの影響からの回復もあり、プラス成長。特に、外科内視鏡システム「VISERA ELITE II」の販売が好調に推移した北米と欧州で売上が増加
■ 医療サービス	15%	9%	保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上、新規契約の増加に加え、新型コロナウイルスの影響からの回復により、修理件数の増加が見られ、全地域でプラス成長
合計	17%	10%	(参考値：社内管理ベース) FY2020比 +8%成長

2022年3月期 通期実績 ③治療機器事業



治療機器事業全体

(単位: 億円)	FY2021					FY2022				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
売上高	430	587	623	679	2,318	636	695	706	719	2,756
営業利益	37	63	132	74	306	141	162	136	170	608
その他の損益*	▲3	▲1	▲3	▲22	▲30	25	▲4	▲8	17	30
営業利益率 (為替影響調整後)	8.5%	10.7%	21.3%	10.9%	13.2%	22.1% (23.1%)	23.3% (23.0%)	19.2% (19.5%)	23.6% (19.4%)	22.1% (21.2%)

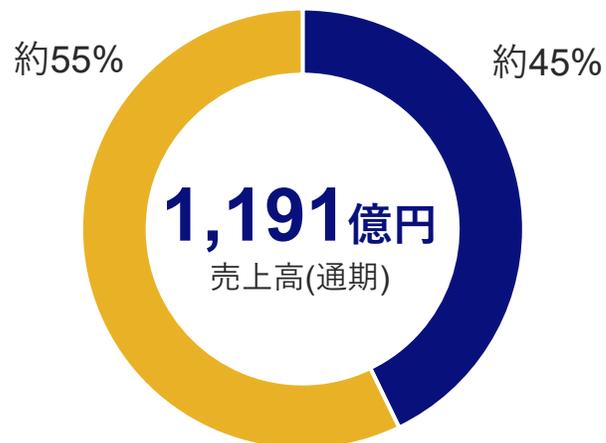
*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値/**FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡について、治療機器事業の呼吸器科に移管。FY2021の実績も同様に組替え済。

FY2022 vs FY2021 (4-3月) 売上高成長率

円ベース
為替影響調整後

事業領域	円ベース	為替影響調整後	説明
■ 消化器科 (処置具)	15%	10%	■ 症例数が回復傾向にあり、全ての地域・製品群でプラス成長。特に、欧州と北米で好調に推移。サンプリング (生検鉗子等)、ERCP、ESD・EMR用の製品群の売上が拡大
■ 泌尿器科	25%	18%	■ 症例数の回復が進み、特に北米と欧州で好調に推移。BPH用の切除用電極と尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」の拡販が奏功
■ 呼吸器科	19%	12%	■ 新型コロナウイルスの影響からの回復もあり、特に北米と欧州を中心に好調に推移。Veran Medical Technologies社の売上の貢献に加え、EBUS-TBNA(超音波気管支鏡ガイド下針生検)で主に使われる処置具や気管支鏡 (超音波気管支鏡の新製品を含む) などが好調に推移
■ その他の治療領域	16%	10%	■ 耳鼻科とエネルギーデバイスが好調に推移。特に耳鼻咽喉科向け内視鏡や「THUNDERBEAT」の売上が寄与
合計	19%	12%	(参考値: 社内管理ベース) FY2020比 +9%成長

2022年3月期 通期実績 ④科学事業



科学事業全体

(単位: 億円)	FY2021					FY2022				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
売上高	178	226	266	289	959	248	283	297	363	1,191
営業利益	▲16	18	27	20	49	19	46	49	62	175
その他の損益*	▲3	3	0	▲13	▲12	▲2	▲1	▲2	1	▲4
営業利益率 (為替影響調整後)	-	8.1%	10.3%	6.9%	5.2%	7.5% (8.1%)	16.3% (15.4%)	16.4% (15.6%)	17.0% (12.5%)	14.7% (13.0%)

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

FY2022 vs FY2021 (4-3月)

売上高成長率

円ベース

為替影響調整後

■ ライフサイエンス	21%	14%	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響からの回復に加え、研究所、大学での予算執行が堅調に推移。販売活動の制限緩和などにより、市場環境の回復が顕著なアジアパシフィックや北米で生物顕微鏡の拡販などが寄与
■ 産業	27%	20%	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な市況回復に伴い、引き続き設備投資状況が改善。非破壊検査機器が好調に推移したほか、5G関連の電子部品や半導体市場が活発であることから工業用顕微鏡も売上増加に寄与
合計	24%	17%	(参考値：社内管理ベース) FY2020比 +8%成長

財政状態計算書

- ✓ 営業CFの増加に伴って、現預金が増加
- ✓ Medi-Tate社の買収などにより、のれんと無形資産などが増加
- ✓ 2021年6月に約7,200万株の自己株式の消却を実施（823億円）
- ✓ 2021年12月～2022年2月に約1,270万株の自己株式を取得（約300億円）
- ✓ 2021年12月外債を発行（USD500M）

(単位：億円)	2021年3月末*	2022年3月末	増減額		2021年3月末*	2022年3月末	増減額
流動資産	5,801	6,946	+1,145	流動負債	3,284	3,763	+479
棚卸資産	1,589	1,674	+85	社債および借入金	315	523	+208
非流動資産	6,034	6,634	+600	非流動負債	4,596	4,704	+108
有形固定資産	2,392	2,471	+79	社債および借入金	3,237	3,338	+101
無形資産・その他	2,368	2,518	+150	資本	3,955	5,114	+1,159
のれん	1,274	1,645	+371	自己資本比率	33.3%	37.6%	+4.3pt
資産合計	11,835	13,580	+1,745	負債および資本合計	11,835	13,580	+1,745

*2021年3月期に発生したVeran Medical Technologies社、Quest Photonic Devices社の企業結合について、当通期連結会計年度において暫定的な金額の修正を行っています。これに伴い、2021年3月期の数値を遡及して修正しています。

連結キャッシュフロー計算書

- ☑ FCF : 987億円のプラス。Medi-Tate社の買収による218億円の支出、社外転進支援制度の引当金取り崩しに伴う112億円等の一時要因を考慮すると、1,313億円のプラス
 - ☑ 調整後FCF成長率 : +65%を達成し、2020年3月期以降の2年間のCAGRは36%と経営戦略の目標を超える水準
 - ☑ 財務CF : 外債発行による調達的一方、借入金の返済や自己株式の取得、配当金支払などにより407億円のマイナス
- 通期実績（4-3月）

（単位：億円）

	2021年3月期	2022年3月期	増減
税引前利益	768	1,499	+731
営業キャッシュフロー	1,241	1,697	+456
投資キャッシュフロー	▲1,189	▲710	+479
フリーキャッシュフロー	52	987	+935
財務キャッシュフロー	408	▲407	▲815
現金および現金同等物期末残高	2,175	3,026	+851

2021年3月期の主な一時要因

営業CF：社外転進支援制度の引当金取崩による支出	7億円
投資CF：事業・子会社などの取得による支出	456億円
投資CF：事業の譲渡による支出	278億円

2022年3月期の主な一時要因

営業CF：社外転進支援制度の引当金取崩による支出	112億円
投資CF：事業・子会社などの取得による支出	235億円
投資CF：固定資産（土地）の譲渡による収入	22億円

02

2023年3月期 通期業績見通し

通期業績見通し ①連結業績

- 1** 売上高： 医療分野・科学事業の事業成長により、+11%の9,680億円を見込む
- 2** 営業利益： 経営戦略で掲げた調整後営業利益率20%超を見込む。営業利益は、額・率ともに過去最高を見込む
- 3** 当期利益*： 過去最高の1,540億円、EPSは+34%の121円となる見通し
- 4** 株主還元等： 年間配当は前年比2円増の16円を予定。自己株式約1,340万株の消却を6月に実施予定

(単位：億円)	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期見通し	増減	前期比	為替影響調整後 前期比
売上高	8,689	1 9,680	+991	+11%	+5%
売上総利益 (売上総利益率)	5,717 (65.8%)	6,465 (66.8%)	+748	+13%	+4%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,054 (46.7%)	4,455 (46.0%)	+401	+10%	+5%
その他の収益および費用など	▲124	50	-	-	-
営業利益 (営業利益率)	1,539 (17.7%)	2 2,060 (21.3%)	+521	+34%	+14%
調整後営業利益 (調整後営業利益率)	1,678 (19.3%)	2,020 (20.9%)	+342	+20%	
税引前利益 (税引前利益率)	1,499 (17.3%)	2,000 (20.7%)			
親会社の所有者に帰属する当期利益* (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	1,157 (13.3%)	3 1,540 (15.9%)			
EPS	90円	121円			

2023年3月期配当

4 年間配当16円を予定

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS

通期業績見通し ②セグメント別業績

1 医療分野・科学： 過去最高の売上高となる見込み

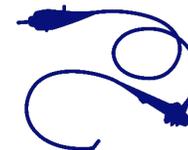
2 全社消去： 前期に発生したその他の費用の減少に加え、固定資産の譲渡益約164億円をその他の収益に計上し、損益が改善

(単位：億円)		2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期見通し	増減	前期比	為替影響調整後 前期比
内視鏡	売上高	4,615	1 5,090	+475	+10%	+4%
	営業利益	1,332	1,560	+228	+17%	+2%
治療機器	売上高	2,756	1 3,100	+344	+12%	+6%
	営業利益	608	695	+87	+14%	+2%
科学	売上高	1,191	1 1,380	+189	+16%	+9%
	営業利益	175	245	+70	+40%	+16%
その他	売上高	126	110	▲16	▲13%	▲14%
	営業損益	▲20	▲15	+5	+5億円	+5億円
全社・消去	営業損益	▲556	2 ▲425	+131	+131億円	+140億円
連結合計	売上高	8,689	9,680	+991	+11%	+5%
	営業利益	1,539	2,060	+521	+34%	+14%

03

**内視鏡事業/治療機器事業 重点施策、
プロダクトパイプライン、中国市場**

プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2022年5月11日時点)



2023年3月期の内視鏡事業における重点施策

- 欧州、日本、アジア一部地域において、消化器内視鏡システム「EVIS X1」を拡販
- 米国は2023年3月期に「EVIS X1」を導入することを目指し、中国は導入準備を進める
- 欧州、日本で次世代超音波内視鏡システムの導入を準備
- 新興国の市場ポテンシャルを最大化し、中国では売上を拡大
- 外科内視鏡分野においては、次世代外科内視鏡システムの導入を準備し、収益性を改善

現在の主力製品

消化器内視鏡

- EVIS X1 (欧州、日本、アジア・オセアニア)
- EVIS EXERA III (米国、欧州)
- EVIS LUCERA ELITE (中国)

外科内視鏡

- VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (欧州、日本)
- VISERA ELITE II 2D (米国)
- VISERA ELITE (中国)
- VISERA 4K UHD (米国、欧州、日本、中国)

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器内視鏡

- EVIS X1 (米国)
- 次世代超音波内視鏡システム (欧州、日本)

外科内視鏡

- VISERA ELITE II 3D/IR機能 (米国)
- VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (中国)
- 次世代外科内視鏡システム (欧州、日本)

中長期のパイプライン

消化器内視鏡

- EVIS X1 (中国)
- シングルユース十二指腸内視鏡
- 内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID (日本、米国)

外科内視鏡

- 次世代外科内視鏡システム (米国)

10%

2023年3月期 売上高成長率

プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2022年5月11日時点)



2023年3月期の治療機器事業における重点施策

消化器科

- ERCP、ESD、メタルステント、止血デバイス など主要カテゴリにおいて、臨床的に差別化された製品ポートフォリオを拡充

泌尿器科

- 主力製品の経尿道的切除術をサポートするTURisシステムの売上および利益の拡大に加えて、iTindの市場開拓を通じて前立腺肥大の分野で業界をリード
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System により、結石破碎治療における成長を拡大

呼吸器科

- 気管支鏡における次世代プラットフォーム「EVIS X1」を米国で発売
- Veran Medical technologies社の統合による肺がん分野におけるソリューション拡大を通じて成長を加速

現在の主力製品

消化器科

- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

泌尿器科

- 前立腺肥大症治療用切除デバイス
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州)

呼吸器科*

- 気管支鏡、超音波気管支鏡
- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器科

- 5製品 (米国)
- 5製品 (欧州)
- 6製品 (日本)
- 3製品 (中国)

泌尿器科

- 前立腺肥大症低侵襲治療デバイス iTind (米国、欧州)

呼吸器科*

- 電磁ナビゲーションシステム (米国)
- シングルユース気管支鏡 (米国)
- 超音波気管支鏡 (米国)
- EVIS X1 気管支鏡 (米国)**

中長期のパイプライン

消化器科

- シングルユース胆道鏡

泌尿器科

- シングルユース尿管鏡

呼吸器科*

- 電磁ナビゲーションシステム (欧州)
- シングルユース気管支鏡

*FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡について、治療機器事業の呼吸器科に移管

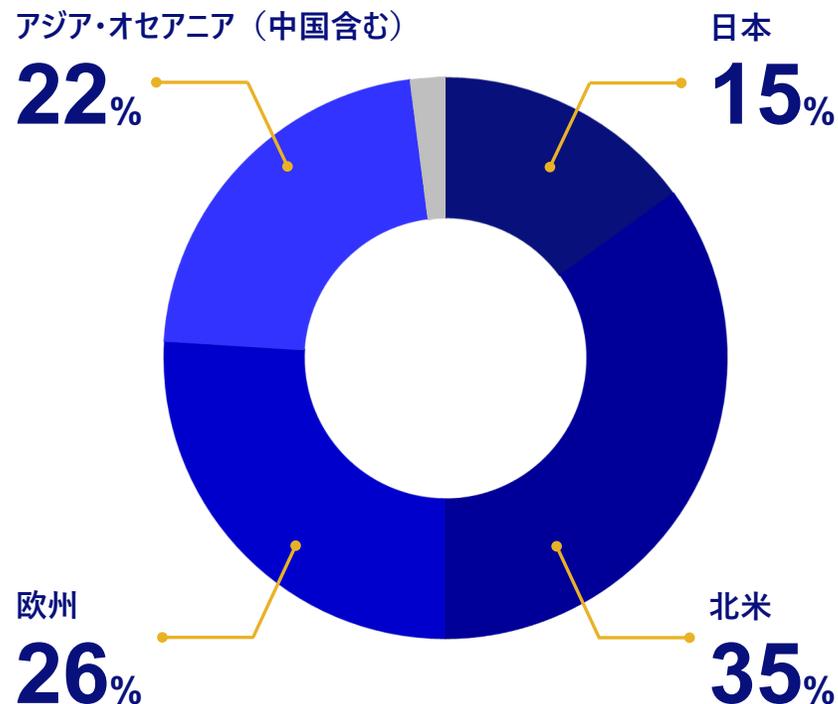
*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

12%

2023年3月期 売上高成長率

2022年3月期の医療分野の地域別成長

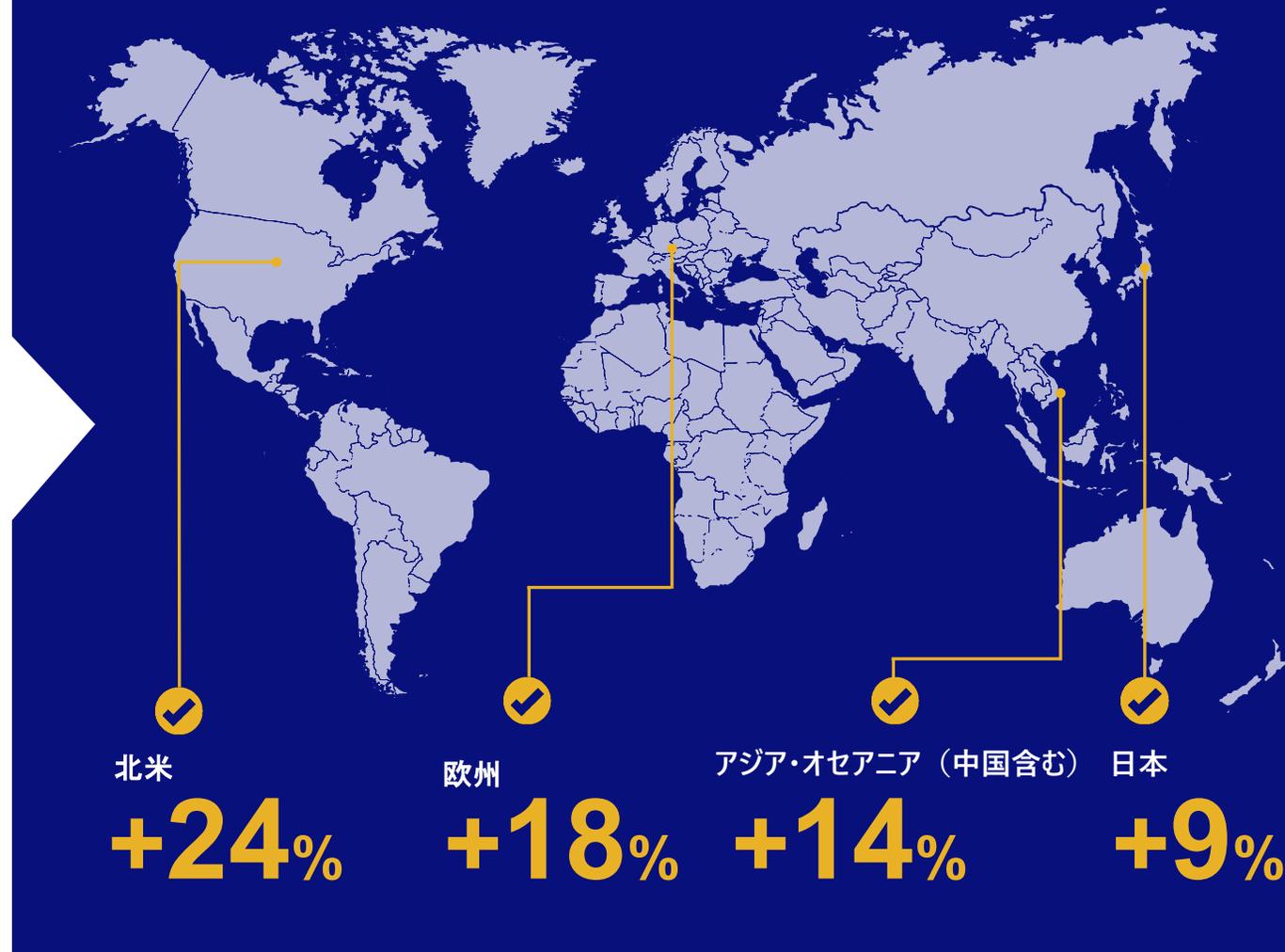
2022年3月期の医療分野の地域別売上高



世界各国で築き上げた強固な事業基盤

- 医師との強い信頼関係
- グローバルに広がるサービスネットワーク
- 内視鏡医の育成を支援

2022年3月期の医療分野の売上高成長率



中国市場の成長ポテンシャルは不変

今後も重要な市場として診断率の向上、死亡率の低減などへの貢献を通じて事業成長の拡大を図る

国家政策に基づく中国市場の成長ポテンシャル

- 「健康中国2030」の方針に沿って、がんの早期スクリーニングを拡大
- 2019年の「県級病院総合能力レベルアップ計画」に基づく中層病院（約7,900施設）の投資増加

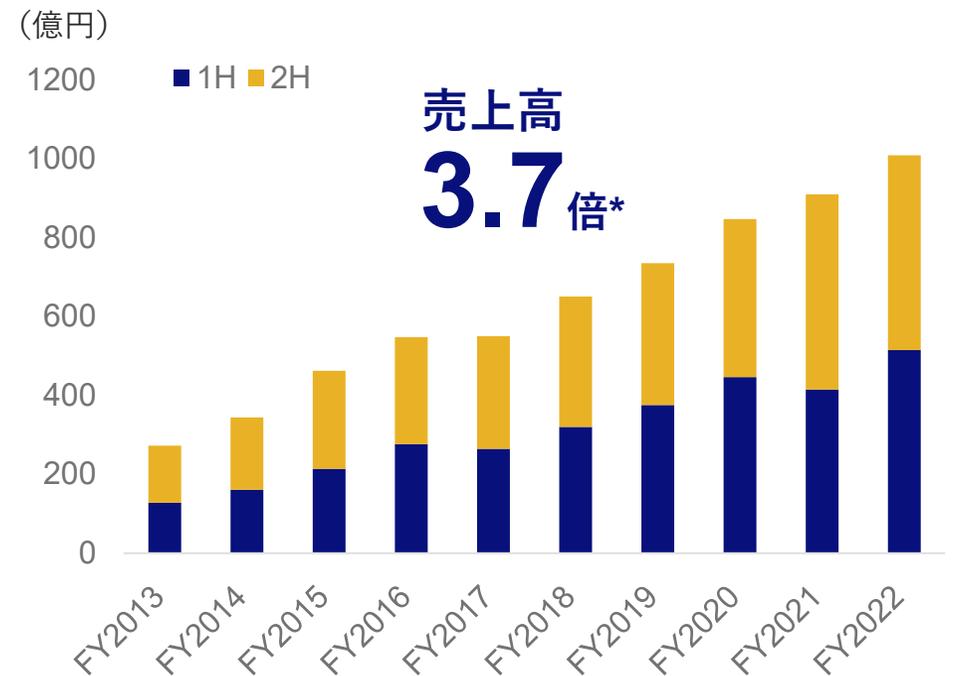
強固な事業基盤と当社の取り組み

- 中国市場にて約**50年**の信頼関係を構築
- 製品・サービス・トレーニングを含めたトータルソリューションの提案
- 内視鏡医の育成を支援
→過去5年間**で当社のトレーニングプログラムに参加した医師の人数

約**25,000人**

- 罹患率や有病率が高い呼吸器疾患への取り組みの強化
- 内視鏡による低侵襲治療のさらなる発展

短期的な業績の変動はあるも、
内視鏡医療に対する高い需要を受け、長期的に売上成長を実現



*中国市場の2022年3月期と2013年3月期の売上高を比較 **2017年3月期～2021年3月期

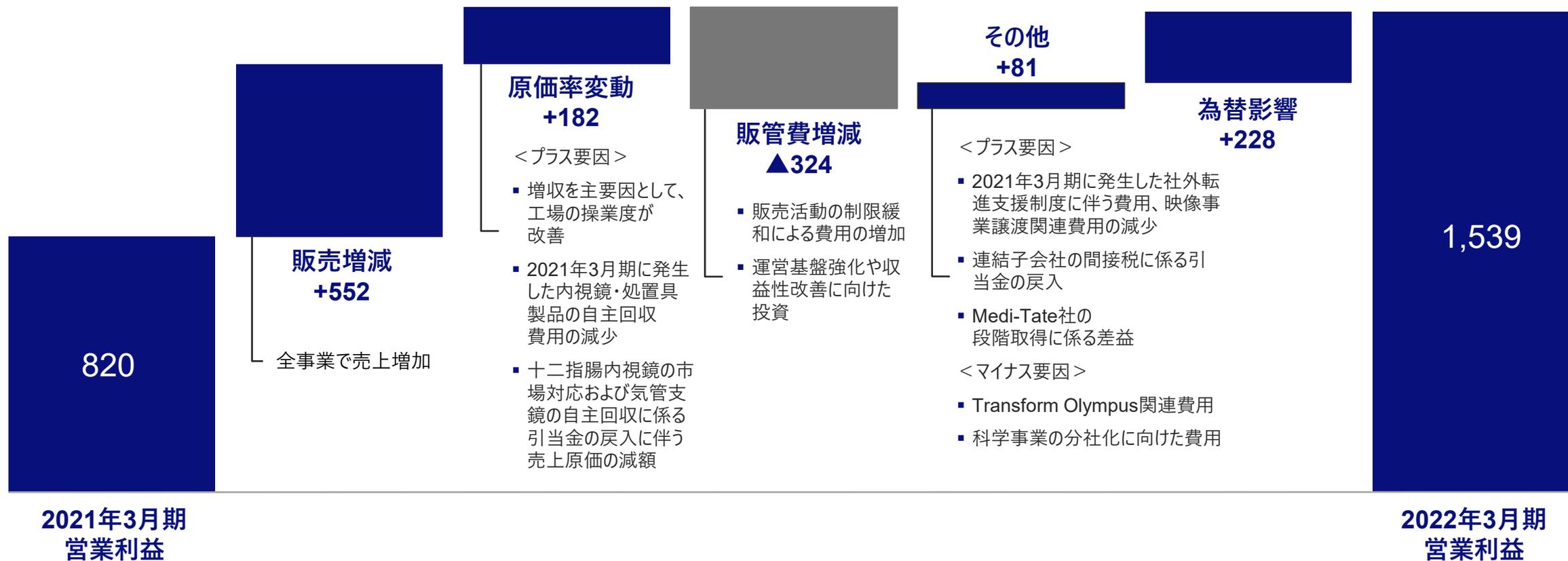
OLYMPUS

A thick, yellow, brushstroke-style underline that tapers at both ends, positioned directly beneath the word "OLYMPUS".

参考資料

2022年3月期 通期実績 連結営業利益増減要因

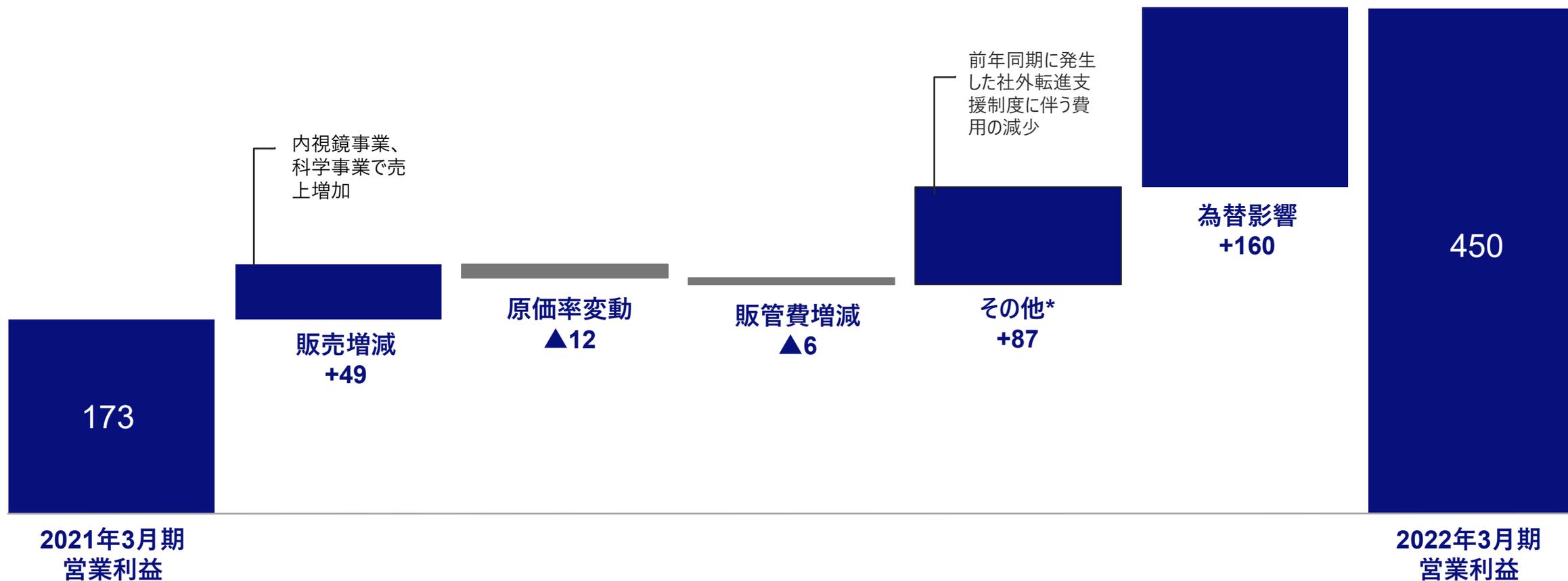
通期実績（4-3月）



(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています。

2022年3月期 第4四半期実績 連結営業利益増減要因

第4四半期実績（1-3月）



(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています。

2022年3月期 通期実績 連結業績概況（2月公表見通し比）

（単位：億円）	2022年3月期 2月公表見通し	2022年3月期 通期実績	増減	2月公表見通し比	為替影響調整後 2月公表見通し比
売上高	8,620	8,689	+69	+1%	0%
売上総利益 （売上総利益率）	5,670 (65.8%)	5,717 (65.8%)	+47	+1%	0%
販売費および一般管理費 （販売費および一般管理費率）	4,050 (47.0%)	4,054 (46.7%)	+4	0%	0%
その他の収益および費用など	▲180	▲124	-	-	-
営業利益 （営業利益率）	1,440 (16.7%)	1,539 (17.7%)	+99	+7%	+5%
調整後営業利益 （調整後営業利益率）	1,625 (18.9%)	1,678 (19.3%)	+53	+3%	
税引前利益 （税引前利益率）	1,390 (16.1%)	1,499 (17.2%)	+109		
親会社の所有者に帰属する当期利益 （親会社の所有者に帰属する当期利益率）	1,090 (12.6%)	1,157 (13.3%)	+67		
EPS	85円	90円			

2022年3月期 通期実績 セグメント別概況

通期実績（4-3月）

(単位：億円)	通期実績（4-3月）		前年同期比	為替影響調整後	
	2021年3月期	2022年3月期			
内視鏡	売上高	3,937	4,615	+17%	+10%
	営業利益	988	1,332	+35%	+20%
治療機器	売上高	2,318	2,756	+19%	+12%
	営業利益	306	608	+99%	+81%
科学	売上高	959	1,191	+24%	+17%
	営業利益	49	175	+254%	+197%
その他	売上高	92	126	+38%	+35%
	営業損益	▲7	▲20	▲13億円	▲13億円
全社・消去	営業損益	▲516	▲556	▲40億円	▲40億円
連結合計	売上高	7,305	8,689	+19%	+12%
	営業利益	820	1,539	+88%	+60%

4Q実績（1-3月）

(単位：億円)	4Q実績（1-3月）		前年同期比	為替影響調整後	
	2021年3月期	2022年3月期			
内視鏡	売上高	1,170	1,278	+9%	+3%
	営業利益	249	416	+67%	+27%
治療機器	売上高	679	719	+6%	0%
	営業利益	74	170	+129%	+78%
科学	売上高	289	363	+25%	+18%
	営業利益	20	62	+209%	+114%
その他	売上高	32	31	▲1%	▲2%
	営業損益	8	▲5	▲14億円	▲14億円
全社・消去	営業損益	▲178	▲192	▲14億円	▲16億円
連結合計	売上高	2,170	2,391	+10%	+4%
	営業利益	173	450	+161%	+68%

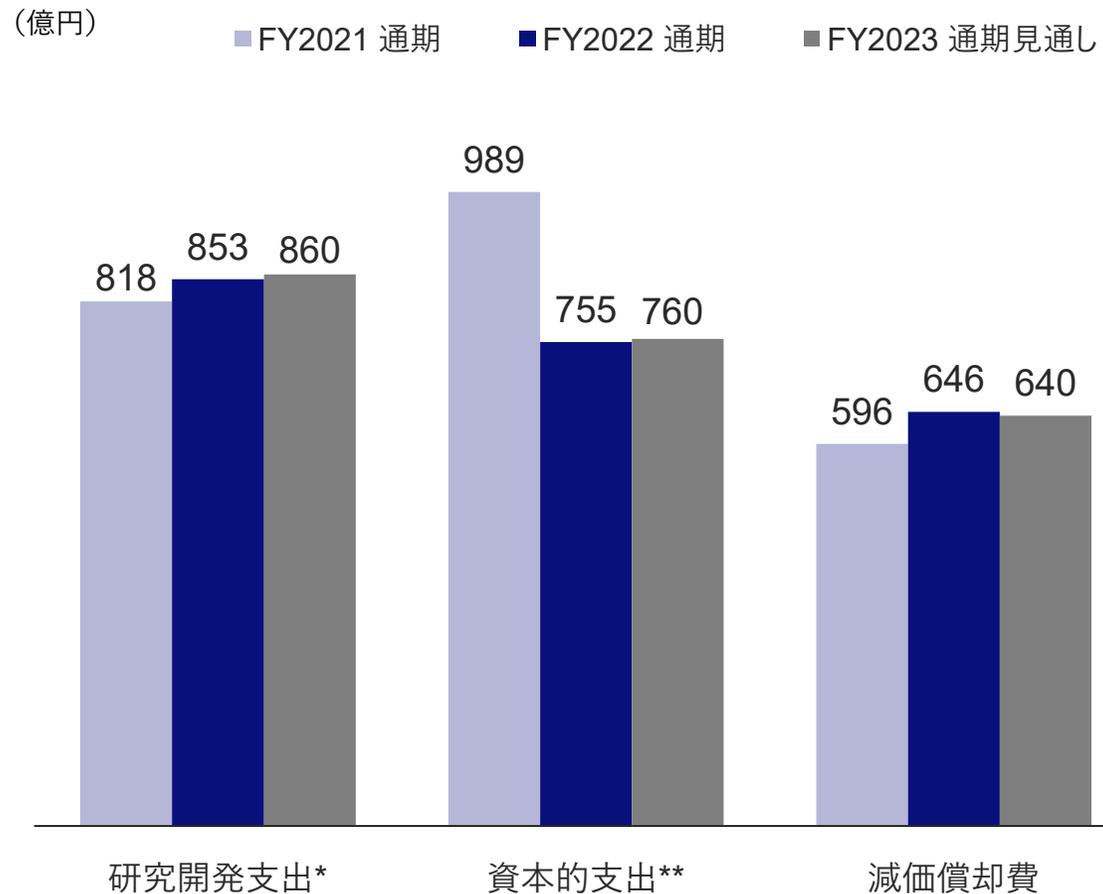
*FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡について、治療機器事業の呼吸器科に移管。FY2021の実績も同様に組替え済。

2022年3月期 通期実績 サブセグメント別売上高成長率

	1Q		2Q		3Q		4Q	
	円ベース	為替影響 調整後	円ベース	為替影響 調整後	円ベース	為替影響 調整後	円ベース	為替影響 調整後
消化器内視鏡	47%	38%	30%	23%	4%	▲3%	6%	0%
外科内視鏡	34%	28%	22%	17%	17%	9%	5%	0%
医療サービス	19%	11%	16%	10%	10%	2%	18%	11%
内視鏡事業合計	35%	27%	24%	18%	7%	0%	9%	3%
消化器科（処置具）	40%	32%	13%	9%	11%	6%	4%	0%
泌尿器科	69%	60%	18%	13%	20%	11%	10%	3%
呼吸器科	42%	33%	36%	29%	13%	4%	▲1%	▲7%
その他の治療領域	43%	34%	15%	9%	9%	3%	8%	2%
治療機器事業合計	48%	40%	18%	13%	13%	6%	6%	0%
ライフサイエンス	29%	22%	18%	13%	7%	0%	31%	24%
産業	47%	39%	32%	26%	15%	7%	20%	13%
科学事業合計	40%	32%	26%	20%	12%	4%	25%	18%

投資など

通期実績（4-3月）および通期見通し



(単位：億円)

	FY2021	FY2022
研究開発支出* (a)	818	853
開発費資産化 (b)	161	155
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	657	698

(単位：億円)

	FY2021	FY2022
償却費	86	90
	2021年12月末	2022年3月末
開発資産残高	601	620

*研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。／ **資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。

(FY2021：394億円、FY2022：161億円、FY2023 見通し：70億円)

財務ガイダンスおよび参考指標

		FY 2023 目標	FY 2020 実績	FY 2021 実績	FY 2022 実績	FY 2023 見通し
 財務ガイダンス	調整後 営業利益率*	>20%	13.5% 1,021億円	→ 14.1% 1,031億円	→ 19.3% 1,678億円	→ 20.9% 2,020億円
	調整後 FCF成長率	>20% 2020年3月期を 起点とするCAGR	-% 711億円	→ +11.6%** 794億円	→ +35.9%** 1,313億円	→ -
 参考指標	調整後 ROIC	>20%	10.7%	→ 10.3%	→ 17.1%	→ -
	調整後 EPS成長率*	>25% 2020年3月期を 起点とするCAGR	-% 45.49円	→ +37.2%** 62.42円	→ +46.6%** 97.73円	→ +37.7%** 118.79円

注：特殊要因調整後 *継続事業のみ **FY2020を起点とするCAGR